

令和3年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 櫻井 以文
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関すること。 2、施設の利用料金の徴収に関すること。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7、施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8、施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額①	上半期実績額②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	93,704	44,428	▲49,276
うち利用料金額	8,302	1,727	▲6,575
うち指定管理料	85,402	42,701	▲42,701
支出合計(B)	93,704	42,060	▲51,644
うち人件費	58,837	31,072	▲27,765
収支差(A-B)	0	2,386	2,386
市への納入金	0	0	0

計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>収入合計のうち利用料金額は年間計画額8,302千円に対して、上半期実績額は1,727千円だった。計画に対する達成率は20.8%となっている。</p> <p>コロナ禍にあっては、本振興会で策定した「新型コロナウイルス感染対応マニュアル」に基づき、利用者及び施設の安全を確保することで利用促進に伴う利用料金の獲得とともにサービスの向上に努めたが、宿泊利用が少なくなり感染状況に伴うキャンセルもあったことから伸び悩んだ。</p> <p>また、8月9日に発生した豪雨災害により9月28日まで避難所となり、約2か月にわたり主催及び受入事業並びに自主事業を中止としたため収入の獲得にならなかった。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、42,060千円だった。計画に対する執行率は44.9%となっている。避難所運営までは利用休止も無かったため経常の運営費を執行</p>
------------------	---

した。また、経年による施設設備等の修繕があった。

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	宿 泊	1,700	114	▲1,586
	食 事	14,000	2,708	▲11,292
	貸 館	180	30	▲150
	リネン	2,500	443	▲2,057
	教 材	2,600	1,013	▲1,587

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有・無)

主催事業及び各団体の受入事業ごとに利用者アンケートを実施している。

今年度も、従来の利用者満足度に加え、新型コロナウイルス感染症対策に関わる満足度や要望を把握するための項目を付加して実施した。感染症対策については、上半期も十分に満足できるとの回答を得ている。

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利用 者 数	収 入	支 出
伝統体験「そば打ち～春～」	31	59	60
不動産の滝を目指そう 事業中止	0	0	0
家族でアウトドア体験 事業中止	0	0	0
生涯学習応援「俳句の会 秋」新規追加			
伝統体験「そば打ち～新そば～」			
食のイベント「Xmas」			
伝統体験「としな作り」			
伝統体験「べこもち作り」			
生涯学習応援「俳句の会 春」新規追加			

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A(優 良)：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B(適 正)：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C(要改善)：指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B

②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目についての改善策を記載すること。

<p>上半期の利用状況は、利用団体数 116 団体（前年度 87 団体）、利用人数 1,581 人（前年度 1,210 人）、利用延べ人数 2,102 人（前年度 1,264 人）となり、前年同時期と比較し、利用人数は 371 人増加し、利用延べ人数は 838 人増加した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館した前年度と比べ利用があったものの、宿泊利用は減り日帰りの利用が多くなった。しかし、繁忙期の利用者増加が見込まれた 8～9 月にかけて避難所となったため、その間に予定されていた主催事業及び受入事業並びに自主事業をすべてキャンセルとなった。避難所が閉鎖となる 10 月からは本来の業務に専念できるため主催事業や自主事業を通して施設と自然体験の魅力を高めるとともに、積極的に営業広報活動を展開して、利用促進を強化していく。</p> <p>評価項目「(5) ②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」を A 評価とした理由は、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みにおいて、本振興会で策定したマニュアルに基づき利用者及び施設の安全確保に努めるとともに、「むつ市感染症対策あんしん飲食店等認定制度」の認定を受けた事業所として、飛沫防止のパーティションを新たに設置するなどして、対策の強化を図ったためである。</p> <p>また、避難所運営においてもむつ市避難所運営マニュアルに基づき、加えて、市の感染対策に準じて避難者や面会者等の検温、マスク着用、人との距離、手指消毒の徹底を図り、トイレ、浴室、食堂等共有の場所やスリッパ等の使用物品の消毒作業、並びに館内における 3 密を避け、日常のきめ細かな取組みを強化して、約 2 か月にわたり避難所の安全・安心を守ってきた。</p> <p>評価項目「(5) ③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。」を A 評価とした理由は、通常の防犯、防災対策に加え、当市より避難所開設の指示を受けてからは常に 24 時間体制で管理運営にあたりるとともに、避難者一人一人の状況やニーズを把握し、適切な対応を心掛けたためである。</p> <p>8 月 10 日の一時避難者 44 人の受入れから始まり、被災地への支援物資輸送に当たる自衛隊約 80～100 人の施設利用、長期にわたる避難所生活者 28 人の対応をした。被災地への物資配送拠点の役割、各種説明会・相談所の開設等、日々刻々と状況が変化する非常事態に危機管理体制を強化してきた。また、面会者等の受付、朝・昼・夕三食の食事提供、お風呂の提供、避難者個々の要望や健康状況の把握等、市の各担当者と連絡調整を図り求められる役割を果たした。</p> <p>8 月 9 日の豪雨によって、当施設の野外活動に使用してきたフィールドも被害を受けた。黒森山登山道、冒険ハイキングや追跡ハイキングのコースにも土砂崩れで通行不能となった箇所等があり、10 月からの通常営業に向けて、避難所運営と並行して野外の復旧作業や環境整備に対しても全力で取組んだ。</p>

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

「むつ市感染症対策あんしん飲食店等認定制度」の認定を受け、利用者に安全、安心な事業所として、PRできたことは大きい。そのため、評価項目「(5) ②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」をA評価とした。

これまで経験したことのない規模の災害に対して、速やかに避難所を開設し、その運営にあっても、避難者一人一人の状況やニーズを把握し、適切な対応を心掛けた。そのため、評価項目「(5) ③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。」をA評価とした。

今後、災害により影響を受けていると思われるハイキングのコースについて、復旧作業や環境整備に対して安全に取り組んでもらいたい。

それ以外の個別評価については、いずれも適正に行われていた。